

あなたを支える人がいます

各種産業機器、自動省力化装置や各種制御盤など
様々な分野で開発から設計・製作を行っています。
「独自の発想」と「確かな技術」であなたの要求を満たします。



株式会社 フォーミット

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間 2023 年1月1日～ 2023 年12月31日)



エコアクション21
認証番号0000071



作成日： 2024年3月9日
更新日： 2024年8月21日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6, 7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	7
緊急事態対応訓練	7
代表者による全体の評価と見直し・指示	8
これまでの環境活動の紹介	8



当社はこれまで各種自動省力機械を始め、様々な産業機械の設計・製作に従事して参りました。これまでに蓄積したノウハウを駆使して、『独自の発想』と『確かな技術』でお客様の信頼にお応えしております。

今後とも常に高い目標を掲げ最先端の技術に挑戦し、新しい時代を切り開くパートナーとして、皆様に貢献できますよう努力して参りますとともに、社員一人ひとりに環境にやさしい取組みを根付かせ、それが家族や地域社会に広がりを持つように活動を続けていきます。

環境経営方針

環境経営理念

産業機械の設計・開発を通じて、SDGsの実現や脱炭素社会・資源循環型社会等の持続可能な経済社会に貢献するとともに、自らの環境負荷低減に向けて継続的改善に努めてまいります。

環境経営への行動指針

- 1．環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2．環境に優れた産業用装置の開発に努めます。
- 3．創意工夫による二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 4．廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制に努めます。
- 5．適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 6．規制物質非含有素材の使用、省エネルギー、省資源、再生資源利用製品など環境負荷に配慮した物品の調達に努めます。
- 7．環境保全のため地域の環境活動に参加します。



制定日：2003年5月26日

改定日：2022年2月5日

代表取締役社長

宮原 勇樹

組 織 の 概 要

更新日：2023年12月31日

(1) 名称及び代表者名

株式会社 フォーミット

代表取締役社長 宮原 秀樹

(2) 所在地

本 社 大阪府豊中市原田元町2丁目2番4号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 宮原 秀樹 TEL：06-6845-4310

担当者 宮原 秀樹 TEL：06-6842-3510

(4) 事業内容

産業機械の設計・製作

(5) 事業の規模

売上高 6,612 万円

(6) 事業年度 1 月 1 日 ～ 12 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社 フォーミット

対象事業所：本 社

活動：産業機械の設計・製作

□事業及び製品の紹介

- 各種自動省力装置、一般産業機械の設計・製作の設計・製作
- 制御盤、操作盤の設計・製作



自動省力装置



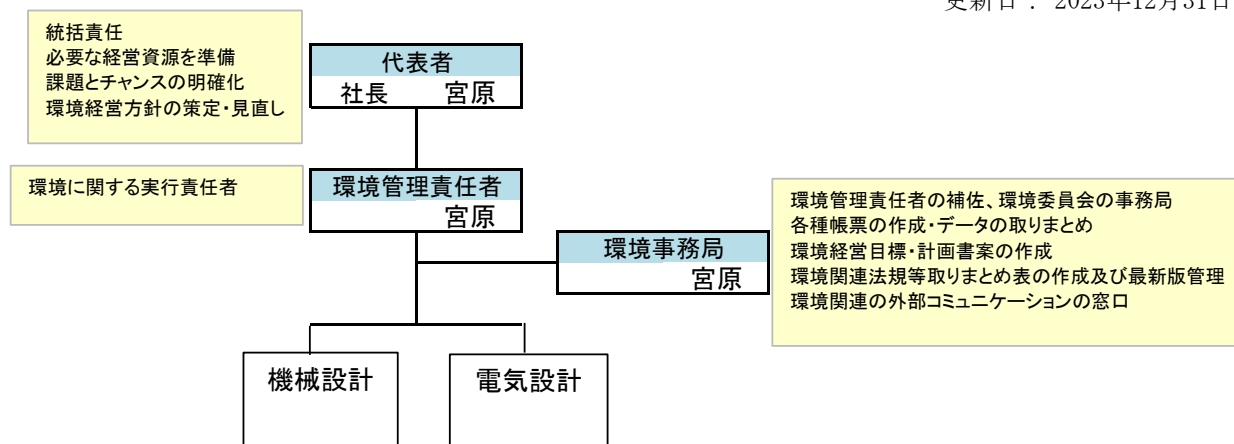
自動検査装置



枚葉式縦型バッファー搬送装置

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2023年12月31日



Mechatronics Intelligent Technology
FOURMIT CO., LTD.

環境経営目標及びその実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	3,095	2,965	2,071
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	20.8	25.7	5.0
産業廃棄物排出量	kg	0.0	0.0	0.0
水使用量 (※)	m ³	—	—	—

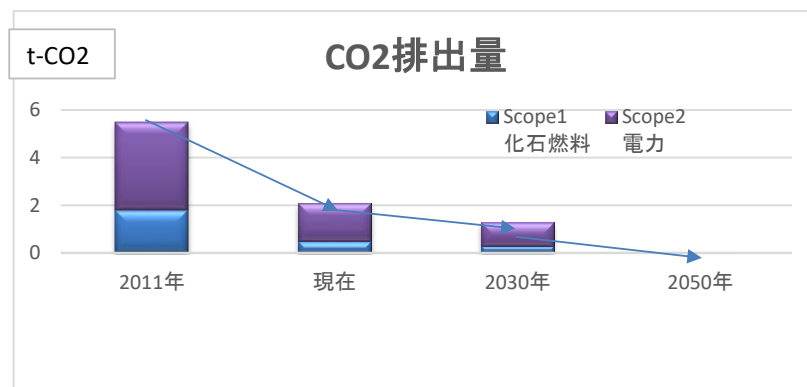
※二酸化炭素排出係数 0.318 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

※水使用量は共用メーターのため把握不可

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位：t-CO₂

	Scope1 化石燃料	Scope2 電力	対 策
2011年	1.8	3.7	
現在	0.5	1.6	省エネ+ハイブリッド車
2030年	0.3	1.0	省エネ+電動自動車+再エネ電力
2050年	0	0	省エネ+太陽光発電+電気自動車+再エネ電力



環境経営目標及びその実績

項 目	年 度	基準値 (基準年)	2023年		評 価	2024年	2025年
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,902	1,864	1,607	○	1,826	1,807
	基準年度比	2016年	98%	84%		96%	95%
	売上高原単位	kg-CO ₂ /千円	0.0389	0.0381	○	0.0373	0.0369
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,142	1,120	464	○	1,108	1,097
	基準年度比	2017年	98%	41%		97%	96%
	燃費	km/L	15.3	15.0	×	14.8	14.7
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	3,044	2,983	2,071	○	2,934	2,903
一般廃棄物の削減	kg	9	9	5	○	9	8
	基準年度比	2016年	93%	55%		93%	90%
環境に優れた産業用装置の開発	行動目標(次項による)						

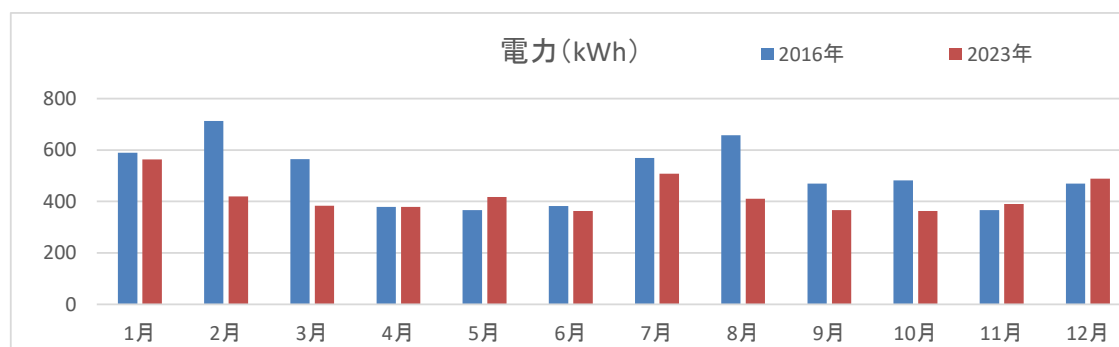
数値評価: ○達成 ×未達成

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成

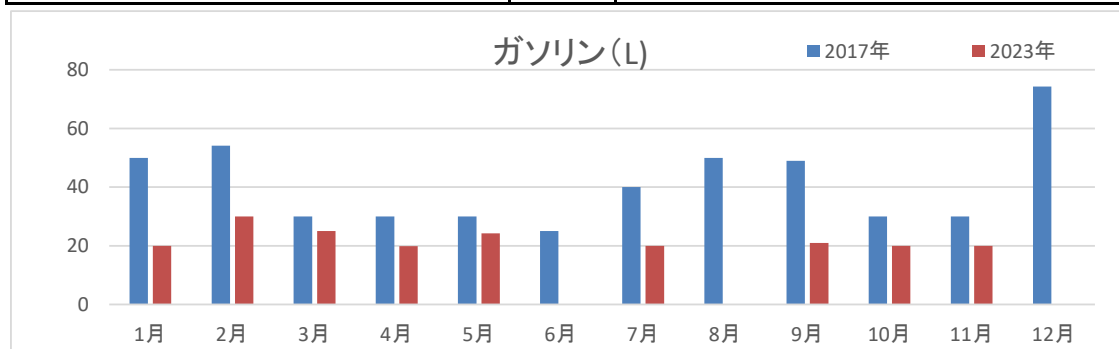
活動: ○よくできた △まあまあできた ×できなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	通年では目標値を達成できた。今後も売上高原単位評価を達成すべく、受注量を増やせるよう取り組んでいく。窓を開けることで自然の風を取り込む。エアコンをつけた場合でも、サーキュレータ使用し、エアコン設定温度をきつくしない。共有部のクールビズ/ウォームビズ運動、電源OFF活動共に徹底しており、定着している。(電気使用量の管理は、ビル一括管理のため、消費電力と金額が比例していない)
原単位目標	○	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯、未使用電化製品の主電源切断	○	
・ノー残業デーの実施	○	
・使用電力量の案内で節電意識向上	○	
・新規顧客開拓への取組み	○	



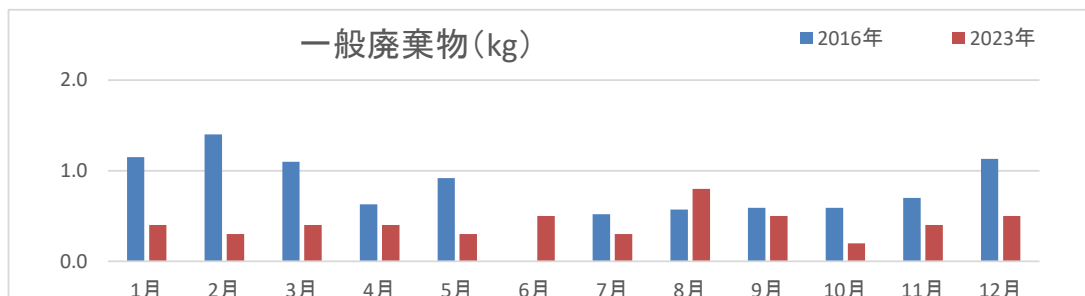
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016年	590	713	565	379	367	382	569	657	470	482	367	470
2023年	563	420	383	379	418	363	508	411	366	363	390	489
基準比	95%	59%	68%	100%	114%	95%	89%	63%	78%	75%	106%	104%
累計比	95%	75%	73%	78%	83%	84%	85%	82%	81%	81%	82%	84%

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	コロナ禍により現場工事案件がなくなり、自動車での移動が減少したので目標値を大きく下回る。引き続き公共の移動手段を検討し、使用量の確認・周知を行う。今後は燃費を意識して、運転時には急加速の抑制や経済速度での走行などエコドライブを定着させるように心掛ける。
燃費目標	×	
・アイドリングストップ	○	
・事前経路確認で無駄な走行を無くす	○	
・遠方の出張は公共の移動を呼びかけ	○	



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	50	54	30	30	30	25	40	50	49	30	30	74
2023年	20	30	25	20	24	0	20	0	21	20	20	0
基準比	40%	55%	83%	66%	81%	0%	50%	0%	43%	67%	67%	0%
累計比	40%	48%	56%	58%	61%	54%	54%	45%	45%	46%	48%	41%

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標値を達成できている。裏紙使用なども行い3R運動や私物ゴミ持帰りなどの適正廃棄は、継続取組みができている。また循環資源の廃棄物処理では とよなか市民環境会議アジェンダ21を利用し、地域の環境活動にも貢献していく。
・分別の徹底	○	
・シュレッター廃紙のリサイクル化	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016年	1.2	1.4	1.1	0.6	0.9	0.0	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	1.1
2023年	0.4	0.3	0.4	0.4	0.3	0.5	0.3	0.8	0.5	0.2	0.4	0.5
基準比	35%	21%	36%	63%	33%		58%	140%	85%	34%	57%	44%
累計比	35%	27%	30%	35%	35%	44%	45%	54%	57%	55%	55%	54%

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

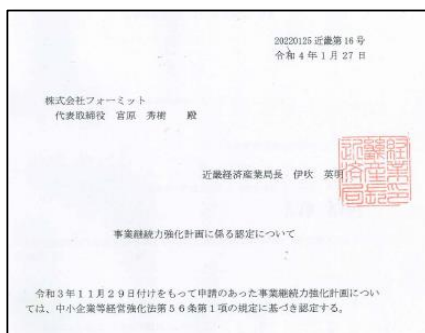
適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
家電リサイクル法	冷蔵庫
グリーン購入法	購入品・調達品、購入先・外注先
顧客要求事項	品質管理、サステイナブル経営

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等これまでありませんでした。

緊急事態への備え

BCPへの備えとして、中小企業庁の「事業継続力強化計画」の認定を受けました。



緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	緊急事態の想定： 地震の発生
■実施日： 2023年10月30日	■実施日： 2023年10月16日
■参加者： 全員	■参加者： 全員
■場所： 事務所	■場所： 事務所
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 室内コンセントケーブルから出火を想定、消防署への連絡と消火器による消火訓練を実施	■実施内容 ☒ 被害状況の把握 ☒ 事業継続確認 BCPへの取り組み、南海トラフ地震を想定避難と各協力会社への連絡、BCP訓練を実施
■評価： 手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし 手順書の通り適切に行動ができた。通報→消火→避難の手順確認も問題なく履行できた。 避難所要時間は、1分30秒でした。	■評価： 手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし 安全確認→避難→安全確認→状況確認と関係部署へ連絡の手順確認も問題なく履行できた。 所要時間は、30分でした。

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年2月3日

省エネルギー、資源有効利用に関する取組みは、PDCAサイクルを遵守し的確に遂行できています。今後も現状維持を図れるように、引き続き徹底する。
環境負荷を考慮した技術開発に関しては、新たな方向性を見出し、継承運用したい。
これまでに蓄積した環境配慮設計の実績を対外的に技術をアピールし、新たな事業展開へ繋げられるよう環境経営に取り組みます。
またBCP取組の推進改善を図ると共に、EA21活動の進捗確認と効率化に努めた取り組みを実施します。
事業継続力強化計画の認定計画に基づいて、自然災害等の発生が事業活動に与える影響を極力抑えられるように取り組んで参ります。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

1.環境負荷技術開発について

弊社では環境負荷を考慮した技術開発に努めています。
テーマの一つとして“省エネモード運転となるソフトプログラムの提供”があり、ユーザに提案し採択されるようになってきました。その一例をご紹介します。
製造ラインに於いて稼働率を上げることは重要課題です。
しかし機種変更による段取り替え作業等で、装置はどうしても待機状態もしくは停止状態が発生します。
待機状態の時は装置が稼働状態(運転状態)となっていますので、電気消費量に加算されてしまいます。
装置がこのような待機状態時に、出来得る限り電気容量を抑える装置運転を弊社では心がけ設計します。
待機状態となった時はエコ運転モードに切り替わり、生産開始時にはすぐに生産可能な状態に復帰させるような装置運転制御設計を提案、実施しています。

2-1.資源有効利用の促進



廃棄物を循環資源廃棄物と一般廃棄物とに分別し、集計処理しています



ペーパーレス運動に取り組んでいますが、コピーする場合は裏紙、両面コピーを徹底しています

2-2.資源有効利用の促進



水道水の削減に対し、水使用量は共同管理で数値管理ができていませんが
節水運動を展開し日々節水に努めています



空調適温化
サーキュレータや足元に絨毯を敷き
空調適温化に役立っています

2-3.エコアクション21への取組み継続

2015年には、エコアクション21の取組みが10年継続という節目を迎え、感謝状と記念品を頂きました。
今後も、この活動を継続していきます。

